第 １２－１８７号
２０１３年 １月 ３１日

平成25年3月期　第3四半期決算について

ANAグループでは、本日1月31日（木）、平成25年3月期　第3四半期決算の概況を取りまとめました。詳細は別添の「平成25年3月期　第3四半期決算短信」をご参照ください。

１．平成25年3月期　第3四半期の連結経営成績

（1）連結経営成績（連結子会社57社、持分法適用会社19社）

①概況

・わが国経済は、世界景気の減速等を背景として、景気が弱めの動きとなっており、航空総需要への影響が懸念されました。そのような中でもANAグループは、堅調に推移するビジネス需要の取り込み、プレジャー需要喚起策等が奏功し、前年同期と比較して大幅な増収となりました。

・あわせて、首都圏空港容量の拡大や航空自由化の更なる進展、LCCの参入・規模拡大といった事業環境や競争環境の変化に対応しながら、ネットワークキャリアとしての「強み」と「効率性」の追求を両立するネットワークの拡充と「マルチブランド戦略」を推進しつつ、「2012－13年度ANAグループ経営戦略」に掲げたコスト構造改革を実行しました。

・これらの結果、当第3四半期の連結経営成績は営業収入が11，321億円、営業利益は過去最高の1，075億円、経常利益においても過去最高の891億円、四半期純利益は522億円となり、増収増益となりました。

単位：億円（増減率を除き、単位未満は切り捨て）

【連結経営成績】	平成25年3月期 第3四半期累計期間	平成24年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)※1
営業収入	11，321	10，698	622	5．8
営業費用	10，246	9，787	459	4．7
営業損益	1，075	911	163	18．0
営業外損益	▲ 184	▲ 196	12	―――
経常損益	891	714	176	24．7
特別損益	▲ 7	4	▲12	―――
四半期純損益	522	337	184	54．6

※1　前年同期との比較による増減率を示しています。

単位：億円（単位未満は切り捨て）

【セグメント情報】	平成25年3月期 第3四半期累計期間		平成24年3月期 第3四半期累計期間		増減	
	売上高	営業損益※2	売上高	営業損益※2	売上高	営業利益
航空運送事業	10，107	984	9，575	835	531	148
旅行事業	1，236	43	1，194	37	42	6
その他	1，116	47	1，036	35	79	12

※2　各事業における営業利益はセグメント利益に該当します。

ANA広報室 03-6735-1111 成田 0476-34-7042 羽田 03-5757-5548 伊丹 06-6856-0270 関西 072-456-7342

②国内線旅客事業

・国内線旅客事業は、ビジネス需要が堅調に推移したことに加え、当社創立60周年記念の一環として年末年始期間に「旅割55」を設定した他、プレミアムクラスにお求めやすい価格の新運賃「プレミアム旅割28」を設定する等、プレジャー需要喚起策も奏功し、旅客数は前年同期を上回りました。

・10月以降、札幌＝広島・沖縄線、関西・宮古＝石垣線の再開や、伊丹＝熊本線の増便を実施した他、12月13日より羽田＝岩国線を新規開設し、国内線ネットワークの充実に努めました。

・仙台空港、小松空港のANAラウンジをリニューアルした他、12月1日より新千歳・仙台・関西・熊本の各空港のANAラウンジでは、ご当地ならではの銘品、銘酒をお楽しみいただけるサービス「ANA LOUNGE PARTNERS」を開始する等、サービスの強化に努めました。

結果として、国内線旅客収入は187億円の増収（前年同期比3．8%増）となりました。

（増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て）

【国内線旅客事業】	平成25年3月期 第3四半期累計期間	平成24年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高（億円）	5，160	4，972	187	3．8
旅客数（千人）	31，568	29，552	2，015	6．8
座席キロ（百万座席キロ）	44，561	42，719	1，841	4．3
旅客キロ（百万人キロ）	27，845	26，168	1，676	6．4
利用率（%）	62．5	61．3	1．2	―――

③国際線旅客事業

・国際線旅客事業は、ビジネス需要が堅調に推移したことに加え、プレジャー需要も旧盆期間や年末を中心に堅調に推移した他、「ANA創立60周年記念エコ割ユース」運賃の販売を開始し、若年層の需要喚起策等が奏功し、旅客数は前年同期を大幅に上回りました。

・10月15日より成田＝ヤンゴン線、10月28日より成田＝デリー線を新規開設した他、成田＝ニューヨーク線を増便する等、ネットワークの充実に努めるとともに、アジア＝北米間の接続利便性を向上させることで、接続需要を確実に取り込みました。

・中国路線においては、9月中旬に発生した反日デモの影響により、需要が急速に減退し、プレジャー需要は引き続き影響を受けていますが、ビジネス需要は12月頃には前年同期並みまで回復しました。

結果として、国際線旅客収入は230億円の増収（前年同期比9．5%増）となりました。

（増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て）

【国際線旅客事業】	平成25年3月期 第3四半期累計期間	平成24年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
売上高（億円）	2，649	2，419	230	9．5
旅客数（千人）	4，769	4，328	441	10．2
座席キロ（百万座席キロ）	28，218	25，543	2，674	10．5
旅客キロ（百万人キロ）	21，395	18，594	2，801	15．1
利用率（%）	75．8	72．8	3．0	―――

④貨物事業

・国内線貨物は、大型台風や集中豪雨の影響等により、沖縄・九州・四国発で貨物需要が伸び悩みましたが、東京発の宅配貨物や北海道発の生鮮品が堅調に推移し、輸送重量は前年同期並まで回復しました。しかし、単価の低下により、収入は前年同期を下回りました。

・国際線貨物は、長引く欧州経済への不安や中国経済成長の鈍化、円高傾向等により、日本発着の貨物総需要の減少傾向が続きました。しかし、日中間で他社が大幅な減便・運休を実施した中で、当社が堅実に需要を取り込み、また、旅客便の新規開設や増便に加え、三国間輸送を積極的に取り込んだことにより、輸送重量は前年同期を上回りましたが、収入については前年同期を下回りました。

結果として、国内線貨物収入は5億円の減収（前年同期比2．2%減）、国際線貨物収入は30億円の減収（前年同期比4．5%減）となりました。

（増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て）

【貨物事業】		平成25年3月期 第3四半期累計期間	平成24年3月期 第3四半期累計期間	増減	増減率(%)
国内線	売上高（億円）	249	254	▲5	▲2．2
	輸送重量（千トン）	359	358	1	0．3
	有償貨物トンキロ（百万トンキロ）	356	356	0	0．1
国際線	売上高（億円）	640	671	▲30	▲4．5
	輸送重量（千トン）	463	428	34	8．2
	有償貨物トンキロ（百万トンキロ）	1，830	1，661	169	10．2

⑤その他

・航空運送事業におけるその他収入は、受託ハンドリング収入等で増収となったことに加えて、エアアジア・ジャパン㈱の収入を計上したことにより、当第3四半期の収入は1，351億円（前年同期1，205億円、前年同期比12．1%増）となりました。

・エアアジア・ジャパン㈱は国内線3路線に加え、10月28日より成田＝仁川線を、11月28日より成田＝釜山線を新規開設し、平成24年12月末日現在、エアバスA320型機3機により1日16便を運航しております。当第3四半期（8月1日～12月31日）の輸送実績は、国内線で旅客数は210，738人、座席キロは383百万席キロ、旅客キロは238百万人キロ、利用率は62．0%、国際線で旅客数は19，148人、座席キロは41百万席キロ、旅客キロは22百万人キロ、利用率は55．5%となりました。

（2）連結財政状態

①連結財政状態について

（自己資本比率、D／Eレシオを除き単位未満は切り捨て）

【連結財政状態】	平成25年3月期 第3四半期末	平成24年3月期末	増減
総資産（億円）	21，683	20，025	1，657
自己資本（億円）（注1）	7，643	5，490	2，153
自己資本比率（%）	35．2	27．4	7．8
有利子負債残高（億円）（注2）	9，220	9，636	▲416
D／Eレシオ（倍）（注3）	1．2	1．8	▲0．6

注1：自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。
注2：有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。
注3：D／E レシオ＝有利子負債残高÷自己資本

②連結キャッシュ・フローの状況

単位：億円（単位未満は切り捨て）

【連結キャッシュ・フロー等】	平成25年3月期 第3四半期累計期間	平成24年3月期 第3四半期累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	1，667	1，607
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲4，725	▲923
財務活動によるキャッシュ・フロー	1，152	384
現金および現金同等物期末残高	765	3，082
減価償却費	914	883

2．通期の見通し

・平成25年1月16日に発生した当社692便（山口宇部＝羽田）ボーイング787型機の重大インシデント認定を受け、現在、ボーイング787型機全機の運航を停止しています。

・平成25年1月においては、ボーイング787型機関連で国内線、国際線あわせて459便の欠航便が発生しており、これから算定される1月の減収見込額は14億円程度です。

・原因究明や安全対策が進行中であり、ボーイング787型機の運航再開の見込みについては、現時点では未定です。

よって、平成25年3月期における連結業績予想を据え置きます。

単位：億円（単位未満は切り捨て）

【平成25年3月期見通し】 （連結業績）	予想 （平成24年10月31日発表）	前期実績 （平成24年3月期）	増減
営　業　収　入	14，700	14，115	584
営　業　利　益	1，100	970	129
経　常　利　益	700	684	15
当 期 純 利 益	400	281	118

以 上